

ニュースレター

いりおもての森から

令和3年8月

No 61

仲間川のマングローブ林
-サキシマスオウノキから海へ向けて-

世界自然遺産登録決定

奄美大島・徳之島・沖縄島北部及び西表島

令和3年7月26日、第44回世界遺産委員会において、「奄美大島・徳之島・沖縄島北部及び西表島」の世界自然遺産登録が決定。白神山地、屋久島、知床、小笠原諸島に次いで5件目。
希少な固有種の生息する生物多様性が高く評価された。一方で、観光客の抑制策や希少種の交通事故防止策などについて回答が求められている。



【浦内川河口に広がるマングローブ林：ドローンによる空撮】



【オキナワウラジロガシの見事な板根】

令和3年7月26日、国連教育科学文化機関（ユネスコ）の第44回世界遺産委員会において「奄美大島・徳之島・沖縄島北部及び西表島」の世界自然遺産への登録が正式に決まりました。登録区域は4島に及ぶ約4万3千ヘクタールで約7割が国有林となっております。また、大部分が森林であり

リイリオモテヤマネコやヤンバルクイナ、アマミノクロウサギなど希少な固有種が数多く生息する生物多様性が高く評価されました。一方、国際自然保護連合（IUCN）から観光客数の抑制策、希少種の交通事故防止策などについて令和4年12月1日までの回答を求められています。



【マングローブ林調査：左上：浦内川、右上：後良川、右下：前良川】

マングローブの植物紹介



【タコ足状に根を広げるヤエヤマヒルギ】

ヤエヤマヒルギ

マングローブ林の下流部に生育し、西表島全域でよく見られます。

西表島では、仲間川の一部と浦内川など島の西部でよく見られます。地上根は支柱根と呼ばれるタコ足状の根を多数広げ、強風でも幹が倒れないよう丈夫になっています。

分布の北限は沖縄本島です。

(出典：西表島の植物誌)

当センターでは、西表島の生育するマングローブ林の保全・保護活動に資することを目的に、島内7箇所に調査箇所を設定し、マングローブ林の生育状況や生育環境がどのように変化しているのかなど、これからの調査を継続的に行っていきます。今年度のモニタリング調査は5調査区(浦内川2カ

所、与那田川1カ所、前良川1カ所、後良川1カ所)が該当し、令和3年4月5月にかけて調査しました。調査内容については、オヒルギ、ヤエヤマヒルギの樹高、胸高直径などの生育状況、稚樹の発生状況、光環境(開空度調査)、地盤高の変化などについて実施しました。

令和3年度は浦内川など5カ所

マングローブ林の モニタリング調査を実施

船浦ニツパヤシ希少個体群保護林のモニタリング調査を実施

—— 幼葉の数、葉の状態、周辺環境を測定 ——

船浦のニツパヤシ希少個体群保護林は自生地 of 北限として植物地理学上重要なものであり、国指定の天然記念物になっています。当センターでは平成17年度以降継続的にモニタリング調査を実施しており、平成28年度以降は毎年、年2回

(6月と11月) に実施しています。

令和3年度は悪天候の影響もあり、2回に分けて調査を実施しました。

調査内容はニツパヤシの葉っぱの状態、幼葉の数、光環境(開空度調査)、地盤高の変化を実施しました。

調査では幼葉の枚数が66

枚でしたが、枯死した葉の枚数が200枚以上と多くなり、降水量や気温の影響が考えられます。

当センターとしては、今後も船浦ニツパヤシ群落の保全に資するため、調査を続けていきます。



【6月23日の1回目の調査は雨の中の調査となった】



【7月7日の2回目の調査
この日は暑く、川に体を沈め休むものもいた。】

マングローブの植物紹介



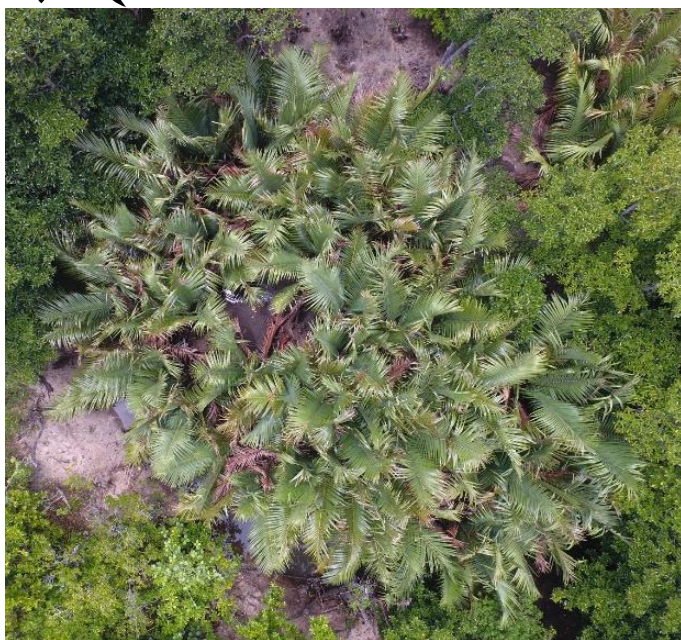
【葉を広げるニツパヤシ】

西表島が世界の分布北限で、船浦湾と内離島の2カ所で確認されています。幹がないので、地上には葉だけが出ているように見えます。熱帯地方では葉を屋根葺きの材料などに使っています。

実は球形で、堅い種子を持ちます。

(出典：西表島の植物誌)

ニツパヤシ



【船浦ニツパヤシ希少個体群保護林。ドローンによる空撮】

森の巨人百選 巨樹・巨木モニタリング調査を実施

仲間川のサキシマスオウノキ 及びウトラ川のオヒルギを調査

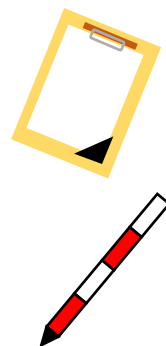
林野庁では平成12年（2000年）に、全国の国有林内に生存する巨樹・巨木を国民共有の財産として将来にわたって保全していくため、代表的な巨樹・巨木を「森の巨人たち百選」に選定しました。

九州森林管理局管内では、当初20本の巨樹・巨木が選定されていましたが枯死等により、現在縄文杉など18本が選定されています。

その中で、西表島の国有林内に生育する「仲間川のサキシマスオウノキ」【樹高…23.9m、幹周…374cm、樹齢…400歳（推定）】「ウトラ川のオヒルギ」【樹高…8.4m、幹周…312cm、樹齢…400歳（推定）】の2本

が選定されています。

当センターは、平成17年（2005年）から毎年、両巨木のモニタリング調査を実施しています。今年度も6月30日に仲間川のサキシマスオウノキ、7月5日にウトラ川のオヒルギを調査し、樹高、胸高直径などの生育具合や周りの植物の発状況、林内への光の入り



具合などを計測しました。

また、仲間川のサキシマスオウノキについては、幹に着生したアカウの成長や以前からタカサゴシロアリの営巣などが確認され、ウトラ川のオヒルギについては、樹幹内の腐朽が著しく進んでいることも確認されました。2本の巨木とも老齢であり、今後樹木の樹勢はじめ生育環境等を注視していく必要があります。



【仲間川のサキシマスオウノキ】



【タカサゴシロアリの巣。サキシマスオウノキに営巣】



【ウトラ川のオヒルギ。調査地へのアクセスはカヤック】



【オヒルギとアナジャコの巣】

プロはすごい！ ガイドによるカヤック指導

— 運航に係る安全確保のための訓練を実施 —

西表島は東部の仲間川と西部の浦内川の主要河川をはじめ大小いくつもの河川があり、河川周辺部は海岸部とともに希少な野生動物の生息、生育地となっています。また、西表島を特

徴づけるマングローブ林もこれらの地域に広く分布しています。

当センターではこれらの生態系を保全するため、各種モニタリング調査や巡視活動を毎年行っています。

しかし、西表島は自然環境の整備は限られており、当センターの業務の一部には、水上からのカヤックによるアクセス手段が最適な箇所もあり、新たに赴任した職員には、熟練した職員によるカヤックの知識や操縦の安全確保にかかるカヤック訓練が行われてきました。今年度も5月18日に西表島古見の後良川にてセンター職員2名、同様の業務を行う沖縄森林管理署の大原森林事務所職員1名の操縦訓練を実施しました。今年度は、座学を昨年度からセ

ンターに在籍している職員が行い、実際の操縦訓練は地元カヤックツアーのガイドに依頼し実施しました。カヤックツアーを生業としていてだけあって、さすがプロといった知識と経験を惜しげもなく教えていただき、カヤックの操縦、運航時の安全確保、河川運航時のルールや係留方法など幅広く指導いただき、職員の操縦指導とはひと味もふた味も違う大変充実した操縦訓練となりました。

【受講者の声】
初めてのカヤック研修でした。2人乗りのカヤックに乗りましたが、前の人と後の人でテンポ良く漕がないと、まっすぐ進んでくれず、右往左往していました。
西表島は河川が多く、調査地までのアクセスがカヤックのみになっている場所もあるので、安全に十分留意しながら操作していきます。（セ）



【4月1日に赴任した職員へのカヤック研修。講師の説明を真剣に聞き入る受講生】

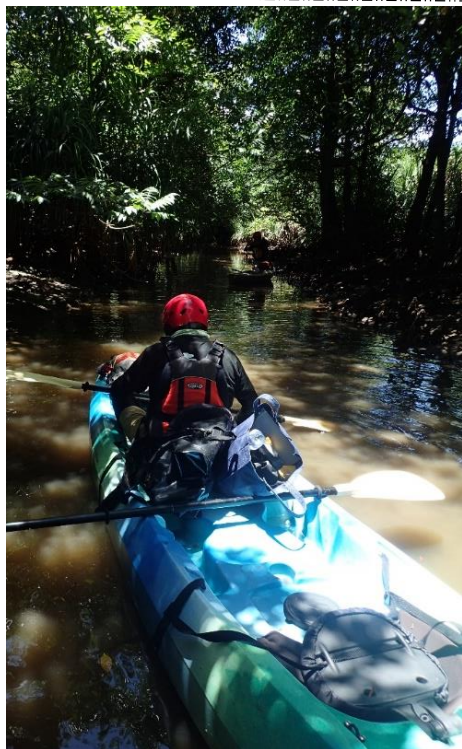


【まずは陸上でパドル操作方法を確認中】

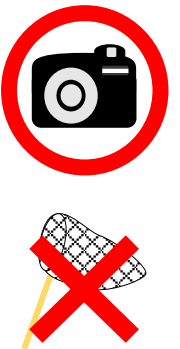


【写真上：2人乗りのカヤック息を合わせないとまっすぐ進まない】

【写真右：7月5日ウタラ川オヒルギ調査。アクセスはカヤック後ろ姿は所長。奮闘中。】



とっていいのは写真だけ



希少野生動植物の密猟・盗掘等を防止するための普及啓発活動の事前会議を実施

西表島は、亜熱帯性気候やその成り立ちから特有な野生動植物が分布しており、それらの動植物がこれまで島外に持ち出されてきました。

昨今は、島内のほぼ全域が国立公園へ指定、林野庁の定める森林生態系保護地

域も拡張され、また、竹富町自然環境保護条例の改訂により指定動植物が選定されたほか、国内希少野生動植物種も新たに数種追加されるなど保護体制にあります。

このような中、特に春、夏、秋の特定の昆虫が発生する時期に採集者が多なっています。昆虫採集が主たる目的ですが、一部の採集者は希少な植物、甲殻類や両生爬虫類などほかの生き物も採集して持ち帰る傾向がみられます。また、主要な昆虫採集のポイントは、ほとんどが国有林の西表島

森林生態系保護地域内となっているため、入林や調査には許可申請が必要になっています。

このことから、今年度も関係行政機関による希少野生動植物の密猟・盗掘等を防止するための普及啓発活動を実施するべく、7月8日（木）環境省西表野生生物保護センターにおいて事前会議が開催されました。会議では、昨年度の活動結果等を踏まえた今年度の活動内容の提案や確認など、関係行政機関による白熱した議論が展開されました。今後はこの会議結果に基づき、希少な動植物を守るために港での普及啓発活動や主要地点の合同巡視パトロールを強化していくこととしています。



【普及啓発活動の実施内容を確認中】



【昨年度の活動の様子：パンフレットを渡して説明中】



【ヤエヤマアオキ。薬用などとして注目され、盗掘により個体数が急速に減少している。】
(出典：改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版)

「鉄は熱いうちに打て」▼もとは西洋の言葉で、「教育や鍛錬は若いうちにこそするべきである」という諺である▼「奄美大島・徳之島・沖縄島北部及び西表島」が令和3年7月26日の第44回世界遺産委員会で、世界自然遺産への登録が正式に決まった。屋久島、白神山、知床、小笠原諸島に次いで国内で5件目。希少な固有種の生息する生物多様性が高く評価された▼中でも西表島は、推薦地域の約半分の面積を占め、イリオモテヤマネコをはじめとする希少な動植物が生息している▼登録が決定した一方で、課題も多く存在する。例えば、西表島はギンネムやモクマオウなどの外来種が侵入し、生態系への影響が懸念されており、対策が求められる▼「鉄は熱いうちに打て」には、ものごとは熱意のある間に事を運ばないと、後では問題にされなくなるという意味もある▼世界自然遺産への登録が決定し、機運が高まった今こそ拍車をかけて課題解決に向けて取り組んでいきたい（風）

ゆんたく

人事異動

転出者

お世話になりました。

令和3年3月31日付

所長	草野 秀雄	転出先	森林技術・支援センター
自然再生指導官	山邊 隆広	転出先	福岡森林管理署

転入者

よろしくお願いします。

令和3年4月1日付

所長	下田 勝也	前任地	九州森林管理局
主事	春田 魁登	前任地	佐賀森林管理署

編集者一言

表紙・裏表紙はドローンで
空中から撮影しました。
空から見る景色はひと味
違った感じがします。

ニュースレター

いりおもての森から
をリニューアルしました

裏表紙：サンガラの滝

林野庁 九州森林管理局 西表森林生態系保全センター
〒907-0004 沖縄県石垣市登野城55-4 石垣地方合同庁舎内
TEL：0980-88-0747 FAX：0980-83-7108

URL: https://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/iriomote_fc/index.html

